

東洋新書

西洋新書

西洋新書初編卷之七
 巴那麻の地
 巴那麻地地形の候の説
 巴那麻の地ハ北亞米理加島と南亞米理加島との東ふいて東の方太平洋の
 港とアスピノウツールといひ西の方太平洋の
 港とハナマの地とあるナハナマよりアスピノウツールの
 道程僅り小三十二里北亞米理加と南亞米理加との西地の
 間ハ小一て議小咽喉の要地あり斯の如きの場所と地峽といふ
 地峽ハ海の中ハ西國の陸地細く出で合ひ連合する所の狭

瓜生政和編集

地不^ちして亜細亞^{あしや}島^{しま}と亜非理加^{あひりか}島の間^まに蘇士^{そし}の地峡^{ちせき}あり是^{こゝ}より
巴那^{はな}麻^まの地^ち不^ふ似^にたり以^{もつ}て南^{みな}亞米理加^{あまりか}島^{しま}中の獨立國^{どくりつこく}ニウガラナ
ガ島の領地^{りやうち}不^ふして赤道^{せきだう}直下^{ちか}より少^{すこ}し北^{きた}不^ふあり一年^{いちねん}の中^{なか}に八^{はち}日^{にち}
と北^{きた}の方^{かた}不^ふ見る月^{つき}も多^{おほ}き日輪^{にちりん}兩度^{りやうたふ}直上^{ちか}へ來^きる熱帶^{ねつたい}中^{なか}なる
故^{ゆゑ}時^{とき}候^{こう}春夏^{しゅうげ}秋冬^{しゅうとう}の差別^{さべつ}多^{おほ}く暑^{あつ}氣^き強^{つよ}く雷^{らい}鳴^なゆると常^{つね}不^ふ
多^{おほ}し

○雷^{らい}電^{でん}の皆^{みな}雲^{うん}中^{ちゆう}に奔^{ほん}まると處^{ところ}の「エキトル^{エキトル}不^ふて紙^{かみ}力^{ちから}の爲^{ため}す業^{わざ}とす
みと兄^{あに}極^{ごく}めし北^{きた}亞米理加^{あまりか}の「ペンシ^{ペンシ}ー^{ニー}とりの國^{くに}の「ヒラドル
ヒ^ヒとりの町^{まち}不^ふ住宅^{たくわく}ぬ^ぬ居^ゐると「仏^{ぶつ}榮^{えい}克^く林^{りん}と云^いふ人^{ひと}不^ふて千^{せん}七^{しち}
百^{ひやく}五^ご十^{じゅう}二^に年^{ねん}日^{にち}本^{にっぽん}の延^{えん}享^{きやう}元^{げん}年^{ねん}不^ふ當^{あた}り今^{いま}より百^{ひやく}十^{じゅう}九^く年^{ねん}お「仏^{ぶつ}榮^{えい}克^く林^{りん}

仏^{ぶつ}林^{りん}の夏^{なつ}の日^ひの驟^{すゑん}雨^うの起^{おこ}ると待^{まち}ちて「エキトル^{エキトル}の尖^{せん}力^{ちから}の論^{ろん}
不^ふ基^きさ尖^{せん}力^{ちから}の起^{おこ}る銀^{ぎん}の管^{くだ}と附^つとる布^{ぬい}不^ふて張^はりし一^{いち}風^{かぜ}と
多^{おほ}き長^{なが}き麻^{あし}の糸^{いと}不^ふて揚^あ荒^あ雲^{うん}の中^{なか}に放^{はな}ちし不^ふ雲^{うん}の越^こ力^{ちから}の越^こ力^{ちから}の解^{とく}
の大^{おほ}層^{そう}「エキトル^{エキトル}の糸^{いと}不^ふ傳^{でん}ふる不^ふ従^{じゆ}つて糸^{いと}服^{ふく}と糸^{いと}と持^{もち}る手^て
不^ふ感^{かん}して次^{つぎ}不^ふ動^{どう}揺^ゆゆ不^ふ糸^{いと}不^ふ耳^{みみ}と考^{かう}せいで笑^{わら}ひ小^こささ管^{くだ}と
と奈^なしとり因^よりて猶^{なほ}糸^{いと}と種^{たね}や不^ふて種^{たね}不^ふ越^こ歴^{れき}久^く登^と
留^{とど}器^き不^ふ起^{おこ}せし「エキトル^{エキトル}少^{すこ}しも異^{ちが}はず爰^{こゝ}不^ふ於^おて仏^{ぶつ}榮^{えい}克^く林^{りん}我^{われ}
か家^かの屋^や根^ね不^ふ鉄^{てつ}の柱^{はしら}と建^たて是^{こゝ}不^ふ少^{すこ}さ鈴^{すず}と附^つ若^わし空中^{くうちゆう}
不^ふ越^こ力^{ちから}を催^{もよほ}す時^{とき}に忽^{たち}地^ち此^{こゝ}柱^{はしら}不^ふ揺^ゆり鈴^{すず}と鳴^なす不^ふて雷^{らい}氣^き
をさると知^しりたるは是^{こゝ}避^よ雷^{らい}柱^{はしら}の盪^う鷗^うあり荒^あ雲^{うん}とりの別^{わか}れ

西洋書 卷之二

有る小非が越力の起りし雲よりその雲の中へ陽越力と
 合む雲と陰越力と合む雲ありは越力の雲互ひ小空中へ
 出合ひ陰陽和合の雲あれば引力と生ト互ひ小引考せ陽
 と陽又陰と陰の雲と追力と生ト互ひ小相離るるは
 引力追力の速さと一秒時の百八十と驅る一秒時の
 日本の半時と三百六十割り一ツ分九脈一ツ打ッる
 ろ斯の如く引力追力の雲の往通ふ空虚と空氣早く塞
 ぐんとして空氣と雲の越力と摺合ひ音と発す則雷
 声あり又摺合ふ時光りと放ッ是電あり故小雷雨中小
 空中と見えは雲或ひはをあり或ひは離れ或ひは蝸巻の



○仙術克林

風と放

雲中のエレキトルと

知る因

○仙術克林

合衆の福主

撒文の学考

仙朗西王と経

波のふ人と味方

あやふふ系げ人の

功績あり

西洋叢書

三

あるべし越力の電の大いなるもの下まで降ると雷の落ると
 云ふ野中るどめて人畜類の雷不撃と死し寺院の堂塔
 鐘樓等へ同雷の落るとあるも地上より少しも高さ処小
 越力と導びく物あると先其処へ傳ふるなり夫故小雷鳴
 る時白雨と樹の下小凌ぐみど其甚ど危し樹へ元越力
 と受ざるの物あれども雨小濡さば越力と受る根も成るなり
 且越力の物の尖りたると好む故樹の枝葉皆尖りこれ越力
 雲の存すと成べし物なり因りて雷の大木小落ると最多し
 是全く大木の空中へ高く出張りことば越力雲早く其氣と
 こと小傳ふるなり雷の音の早さ一秒時小百九十ると通り

越し電の光りの早さ一秒時小八万六千五百七十四里の遠
 さ小達せるといふ其證據とあるは野原小て小銃を放つ
 と遠く小居て見ると時へ光りの後小音と尖り近く小居て見
 とは音と光りとと一度小見ると一然とばは理と一ツホー
 電と見るとより脈ニツニツ打て雷声と聞けや雷七八十ると強
 る故也や小居らざ又電より程過て雷鳴聞ゆるは遠く越
 力雲のゐる処遠し電と雷声と整齊あるは思ふべきもの甚後
 るり故小雷鳴頭上小近附ば路道と歩行ば増して裸体
 小て屋根へ降り雨多と防がんとあるは実小危ふとの極
 め小て強を戒めざる可らんや 必小雷の声へ大なりと雖も

是と雷の鳴処より上小居て下小居ては音の三分の一も
 過ぎるべし嵐の天井と馳走ると下小居ては音人と
 驚めす程もれども是と上小居ては時ハ函うふして耳と聳
 て非バ夢えざるか如し然れば雷の音も空気と雲中の「エレ
 キ」の相合ふて発する音も下小居ては如きの轟
 びてハ非ざるべしを雲の「エレキ」火打石ふして空気が火
 打鎌る石と鎌相合ふて音と轟と放すに至る

地四月より十二月迄ハ雨降と懸けは湿度深く衣服膳碗の
 類も微の生ると日本の五月雨の頃よりも甚どし地形ハ

中亞米理加と南亞米理加との山脈續
 るれば高低不一鋸の齒の如く近傍
 あり「ホルルト」ヘローとりの処の東の方
 廣大無辺の丘陵あり古木老樹生ひ
 茂り林藪蒼々として數百里の間に
 蔓延どば良材と産し出すと多しと
 ども虎豹熊などの悪獸夥々小
 より容易小切出難し野猪豚
 の類も又多く山林小産す去
 地鏡大小して菓実の熟する小宜く



巴那麻 洪の圖

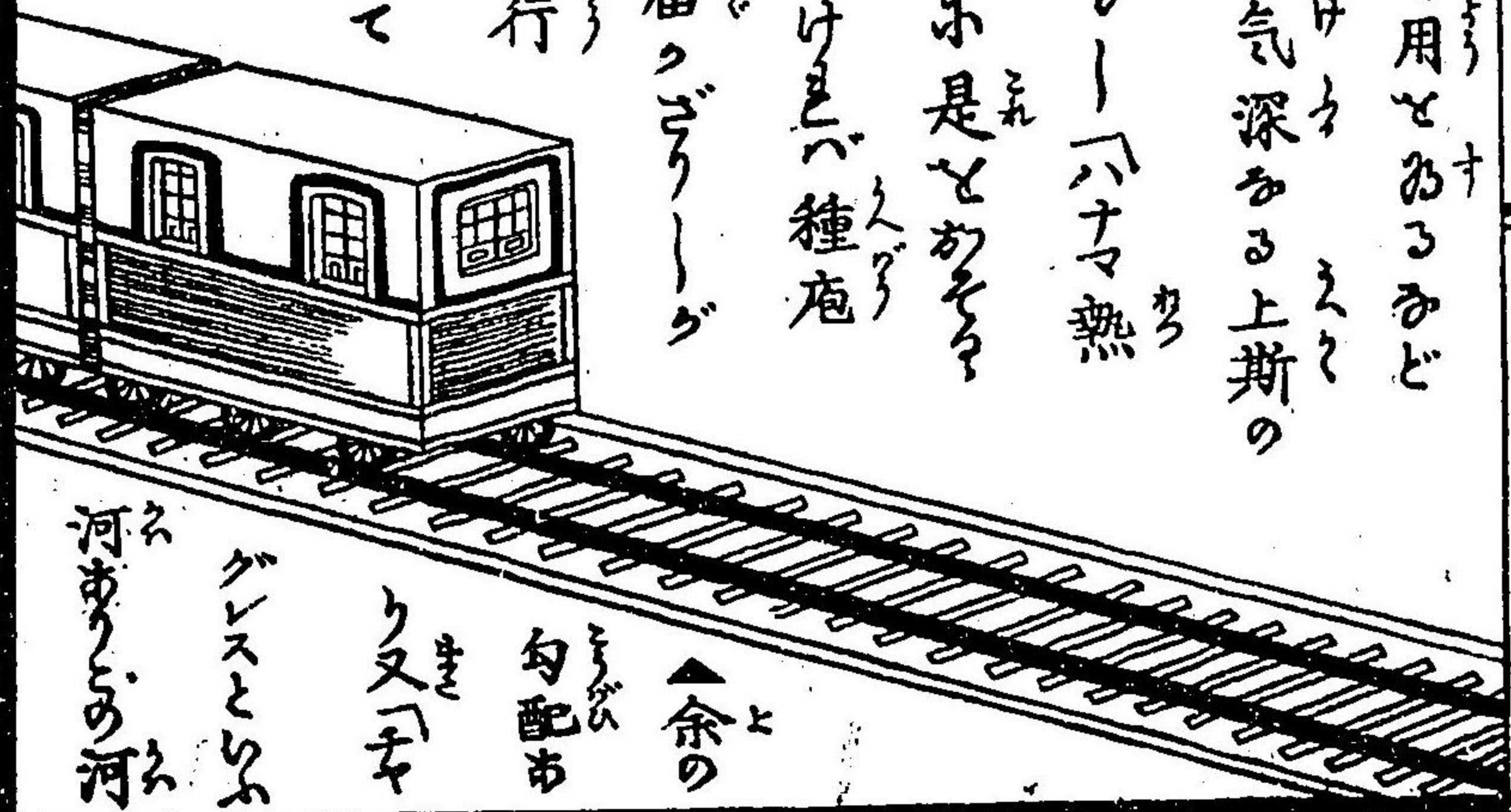
木綿。乾菜。皮革。石炭。多と以て当地の産物と成り、港口の遠淡、大船の一里半をくり沖に截り小船を上陸す、其数百の小島あり、小島の中小兩三軒が人の家建ち、風景最よし、海中汐の満ち多し、潮汐の一丈士尺大汐、小の二丈二尺も満ち、折小觸ての小船と、りて、初らざる夏あり

海の水の面一晝夜、二度高くなり、低くあり、減加あり、盈来り、潮往運動して止まず、之と潮汐と名く、海水は日月と相互ひ引く力、因り、満ちあり、と、りて、日地球と離るる、遠く月地球と距りて、近きと、月月の感動と、結して多し、まれ故、小日月同、下方、在るとき、取分け、引力盛ん、小して、潮汐の

高低最甚し、是と大汛と名く、ハナマの辺、赤乃直下の傍り、日月と地球の距離最近、所あり、故海の水の満ち多し、あり、是全く日月と海水との引力強き故ありとぞ

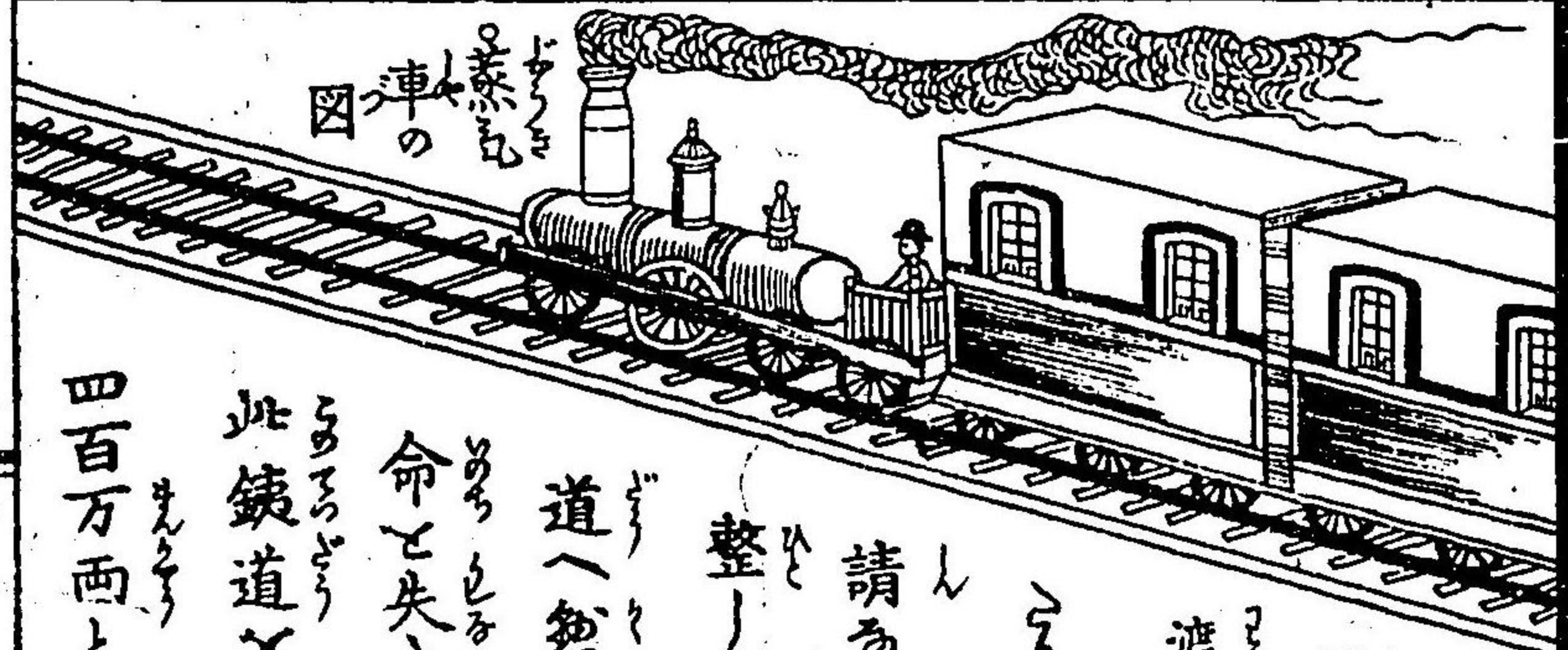
港の波戸場、小の三町余の棧橋へ屋根を附し、掛け出し、物揚場とあり、市中家作の立派あり、皆他国の人の店、小して、土人の居宅、其ど、忌悪く、少し、在方、あり、皮附の丸木の柱と堀建、小あり、椰子の葉、小て、屋根と、背さ、椽も、あり、壁戸障子と云、あり、柱、小柱、細の様あり、物、小て、釣床と、掛け、夜、その上、小藤あり、十才以下、ぐら、の、子供、皆、丸裸、体、小て、土間、小轉付、居る、容子、小更、小犬、豚と、異あり、と、る、小女、小腰、卷、一ツ、掛け

立歩行るがら物と喰ひ寐ぬむらりて用とぬるまで
 人倫の道りもど用けぬ処あり土地大の濕氣深なる上斯の
 如く常小土間の居る故熱病折々流行ありハナマ熱
 とて甚ざり悪症あるは西洋人も大い小是とあそそ
 と云り惣じて土人頑愚ありて疑心深けは種痘
 瘡の法と用ひず政府亦ても世話行届らざり
 五年亦ハナマの港にて痘瘡大い流行
 あり人家二千軒人口一万人斗りの中にて
 千人余も死亡の及びなりと云ハナマの
 地より「アスピシウラル」の港まで蒸氣車の



▲余の
 句配市
 リ又「マヤ
 グレスとり
 河あり河

鑛道あり是ハ千八百五十三年今
 り十八年亦ハ兩港の間通路悪
 く且熱地あるは何れも不便利
 ると憂え英吉利佛蘭西合衆國の
 三々國の人々言合せ翌年の五月よ
 り普請と始とめると途中に残ら
 ず山ふてハナマより五里をくりの処
 殊小高く海小較べれば其高二十六
 丈あり夫故ハナマより次第上り小路
 と附坂の急なる所ハ一里の間ハ十二丈



○ハ鑛の橋と
 掛て蒸氣車の
 渡するよハ持へ
 たり斯の如き大昔
 請あるハ熱焼ハ
 整へ地あるは鑛
 道ハ惣ハ人夫の
 命と失ふり少あり
 此鑛道と開くハ入用
 四百萬と云へり

蒸気車ハ蒸気船と同様ある仕掛ふて石炭と焚湯と沸
 その湯気のカを以て走りせる車あり一輛の車ハ蒸気と仕掛
 け之を機関車と名づけ機関車一輛を以て人数二十四人乗
 の車と一輛を牽ぎ合せ二十輛又ハ三四十輛を引くありその
 製作大ふして最も手固く車一輛毎ハ四ツの鉄輪と付て
 走りませど尋常の道ふて行れず地を平らふ一車の輪の
 當る所ハ巾二寸厚さ四寸計りの鉄線の溝を穿るものと二條埋め其上
 と往來せるあり是と鑛道と作り鑛道と作る入用の土地の險易
 ふより同様のらむと雖ども當時日本ふてこころいとも平均ふ
 して一里ハ付三万兩程のとりり火輪車の真ハ重大の物あり



初めて
 蒸気車の
 鉄道を
 造る

ども蒸気のカを以て是と引かれ
 めるく走りて行路の迅速なるを
 蒸気船の波と押切て行が如き
 のふあらず通例ふして一時三
 十里急行ハ至りてハ一時五十里
 走ると言へり蒸気車の發明
 も大抵蒸気船と同時代を以
 ども之と實地ハ用ひとるハ蒸
 気船より晚一十七百八十四年
 今よりハ八十七年ハブルレム。

ムルトツクといふ人初めて蒸気車と製し出せど輕少の玩具
 ものあり其のち二十年を経て千八百二年に至り今より六
 十九年ありリチャルドレフヒチツクといふ人機関の工夫と
 付とせども是とも實地不用也るに至らず千八百十二
 年今より五十九年あり英吉利人「ジョージ・ステフエンソン」
 蒸気車と造りて石炭と運送せしより初まり千八百
 二十五年に至り今より四十六年あり同人の工夫にて「スト
 ックトン」といふ処より「ケルリントン」といふ処の二三里の
 小鉄道と作りしと始めとして夫より歐羅巴諸國及
 び又亞米理加も其法を效ひ國の中へ縦横小鉄道と作り

遠近小指へらず蒸気車と用ひる事と成り蒸気車行ハ
 きてより千里の道も遠しとせずして各地の産物と積
 いざし交易する小難船のうきへみち船をさばるる小
 都合より物の價を平均し都鄙の往來を便利
 せしめ人情相通して俄に小近來の間に新小志と
 りとらふ西洋の人のえあり小近來の間に父母妻
 子のやまひと聞きとよくしてその死期小かくする採
 の近遠あるを云へり是とも小「ジョージ・ステフ
 エンソン」の賜物ゆしては人の英吉利の「ハースオスホルランド」と
 云ふ所の生れあり兄弟多く家貧るも父母の今日の烟りと

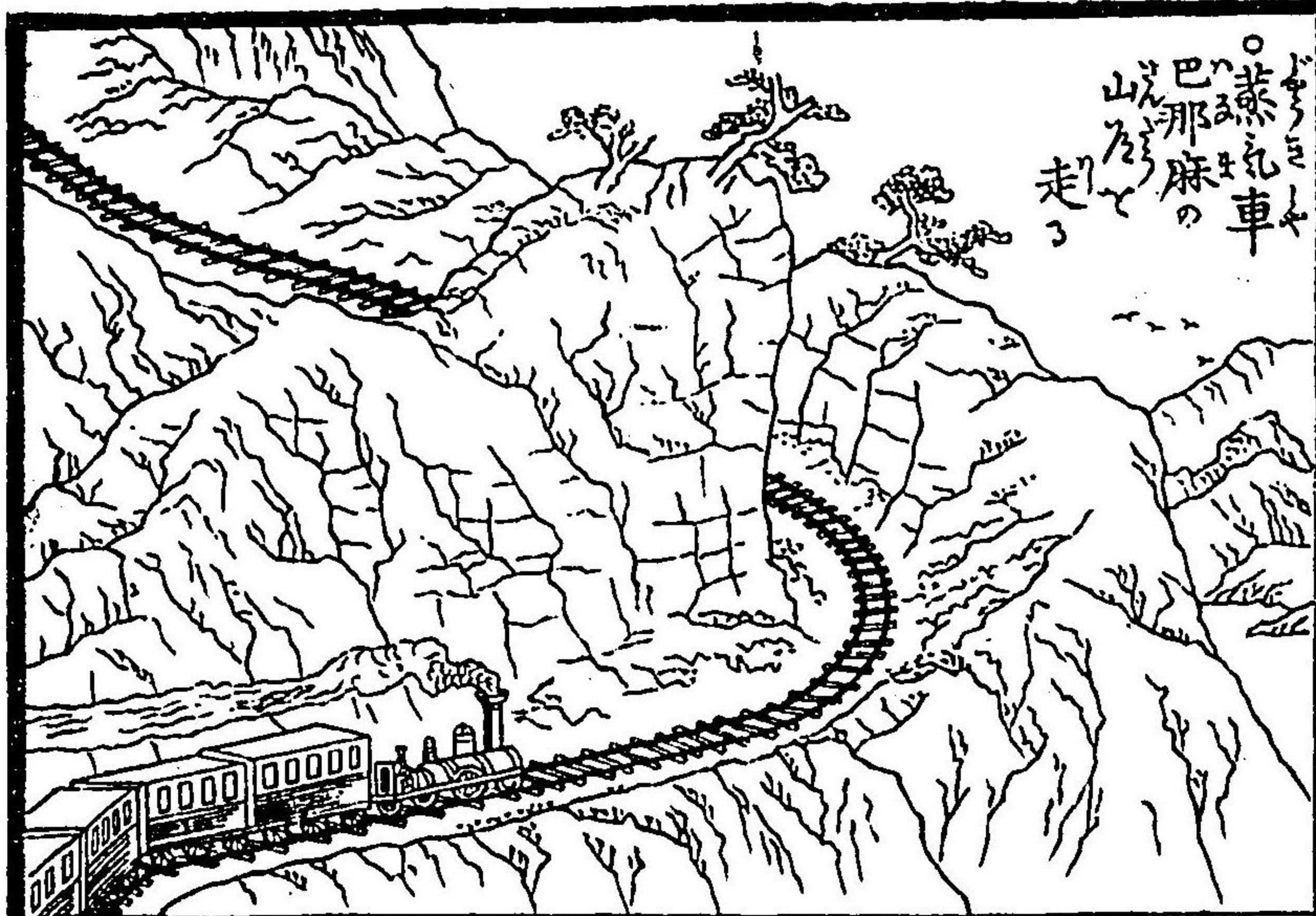
立煎る不因りて「ステフェンソン」も九歳の時より隣りの家へ雇はれ
 一日小七分五厘の賃銀と養ひ牧の牛の番人とあり又ハ農業の
 日傭多し居り「ガ」又ハ「井ラム」と云ふ処の石炭の蒸氣の火
 焚と活計と為し居り「ガ」ハ「ステフェンソン」も年十四の時石
 炭山の火焚のも傳とあり父と共小持きて父が今日の當この
 助けとあり居り小石炭山の社中の者「ステフェンソン」を足て
 才智あり少入るるごとく各是とせし「ガ」ハ「ステフェンソン」年
 十八ふ成ると此のころ之を做されば我姓名とどふ讀み能
 へば爰ふ於て書々生活の業と勵之夜ハ其地の童子の
 中ハ打雜り学校へ往と書と讀と文字と書と算術とをひ

寝喰と忘れ勉強もする二年少して大畧其業ハ達し「ステ
 フェンソン」ハ性來諸事ハ各用るる人のぬ小時斗と修養し
 履と繕ひ衣服の破れと綴くり襦袢の垢付ると洗ひ何
 等の煩勞と雖も我活斗と助く可きるれば少しハ是を
 憚ららず其用向と達し「ガ」ハ「ステフェンソン」の社中ハ評して
 百需全備の才物ありとす其の如くすれば集人の中より
 拳られて早く石炭山の役人と成し「ガ」ハ「ステフェンソン」の宿豫
 出来たる故其居隙の時ハ毎ド古來未曾有の工夫と索ト早
 小ハ蒸氣車の機軸と製する又鑛道の發明と得て是を
 英國ハ冠と初め次で諸弱ハ押及らず小至り國內ハ勿論外國

ようも招待と受て澤山の給料と得る小至れば漸くして家富
 と栄へ豊小老と送りつゝも蒸氣車鑛道の發明小因り
 てあり今日本も東京と横濱との小鑛道と通じ丘と割
 り海と埋め六々川へ鉄橋と渡すの大業七八分へ出来しむ
 近く小全く成就ありまづ昨日へ漸く小改つゝも蒸氣車
 の速来も明日へ目のお小足るむと得る文明栄化の世小逢ひ
 て誰も樂しとみさるや

十八百五十五年即ち日本の安政二年小普請成就して極熱の
 嶮路と少の足も勞らさず昔時の石小「アスピントール」生
 至る小實小蒸氣車鑛道の蔭ゆいて其功最大ありや「ハマ

より「アスピントール」までの蒸氣車賃銀一人お小つゝ二七四ドル
 あり蒸氣車大小不同と雖ども大概一車の長さ八間中二石左右
 小ニツブ四の車と附つゝ一車へ二十四人と合せ片側十二人へ兩側
 へ並び腰と掛け申と通行の道とあるあり小合ひ大勢ありは車
 と何輛も繋ぎ合せ先へ蒸氣の仕掛ある車と繋ぎ夫の増勢
 と以て引する小極の熱國ある上雨氣強き地あれば蒸さるる
 如く小て尺居くは暑さ堪え難しとつゝども車の走るを矢より
 速くするべ涼風自ら生じ車車の石へ却て炎暑と凌ぐ小宜
 あり「ハマ」より「アスピントール」まで二十二里余の道程と二時
 かりり小して往り鑛路へ二條ありて往来と別つ「サンフラン



○蒸氣車
巴那麻の
山を
走る

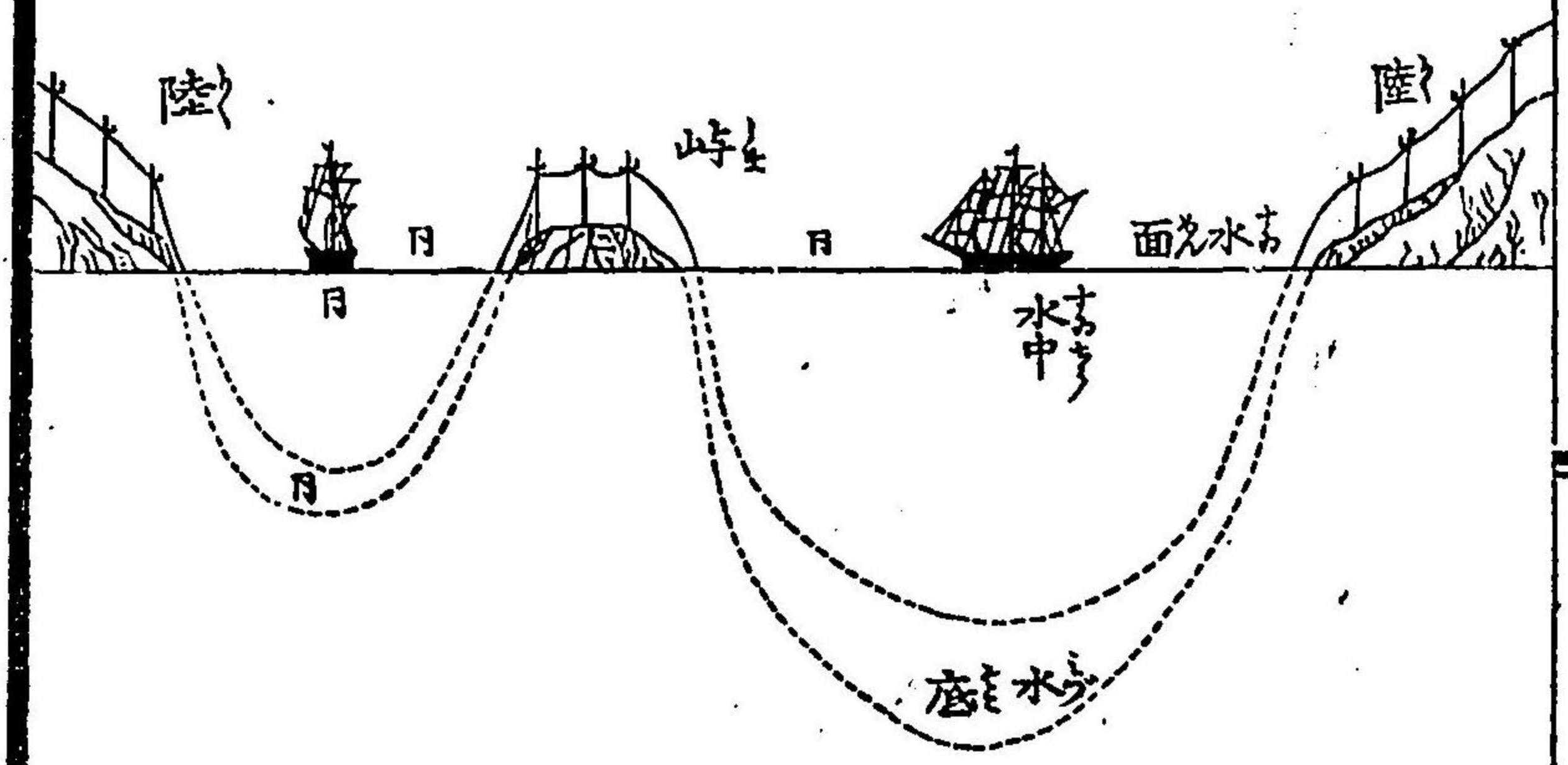
シスコと「ニウヨーク」との間の陸地
差渡—東西千六百里余の
小蒸氣車の道と作り過半の
出来れば以後二年の内小
成就は—とありけ、漢道出来
上れば「サンフランシスコ」より直に
「ニューヨーク」へ往れる也、「ハナマ」の巷に
着船減ドで自づと林—く成げ
まど日本より「亞米理加」の地へ往る
大に便利ありとあり、又「傳信

機と「ハナマ」と「アスピンウラール」まで引渡—急便の用備へ
傳信機へ越列機、篤兒の氣の力と以て遠方へ音信と傳ふる
仕掛の物にて越列機、篤兒の事へ支那人も未だ知らず日本
人も是をぞい嘲—小安とみもる、仕掛あり、その仕掛の記
おの「エレキトル」の條下ふ少—く解記—とまどみうく六ヶ
—く一寸との書取難—然れどもその趣意、銀鏡、小越列機
篤兒の氣力と通ざる物にて、け処、小越列機、篤兒の仕掛と置
彼処、小銀鏡の仕掛と設けて、け方と彼方、のる、小銅の線と
張り、け線より越列氣と通ざれば、距離の遠き、近き、小抱の
其氣、忽地、銀鏡、小感、て運動と得る、故、その、勃機、と針の

○海の底へ傳信機

引る図

○俚俗の古俗に三山六海
 一平比と移る山は地球の十分の三
 海は地球の十分の六平地ハ
 地球の十分の二と云ふと
 西洋人の説も同じ
 又地球の三分三厘を以て
 陸地と為し陸地のうち
 平地と山とを多あつて砂と土と
 七六の比と為す海と為す
 亞米利加島の平地は山と少く
 六分の三と平地とあり
 ニ多ク山とあり



先へ傳え紙のいろはと書て置針の先の指す処の文字と讀む
 往べ用向訳るあり傳信機の神速あるて千万里の処へも一
 瞬の間へて達す是より彼へ通る銅線の太さ一分五厘の
 物にて作るは一秒時ハ一秒時ハ大概一ツ打るハ二万五千八
 百九十六里の遠さハ傳え銅線の太さ六厘八毛の物にて作れ
 四万五千九百九十二里余の所へ達せると云ふ其速さと無量と云
 べー又是より彼へ線と通るハ三四十百置る柱と立高さ八
 九尺の処へ線と掛るあり水の底へ沈るものハ線のまわりと
 樹の膠汁を包む水を防ぐあり是と拵る入用陸にてハ一里にて
 三百兩ぐらゐ水の底の仕掛ハ一里にて四千兩ぐらゐ掛るぞぞ

當時西洋諸國の海陸とも蜘蛛の糸の様、銅線と縦横に引
 張つて肝要の消息と通し新聞と報し合ひ千里の外の人と
 對ひ合て語すが如くみれば公私の便利に上り西洋人の
 諺に傳信機出来て世界を狭くするに云ふぞは傳信機の
 千七百七十四年今より七十二年は佛蘭西人「レガシ」の工夫ありけり
 初めて傳信機の仕掛と製せしより以来越列機、篤兒の術、次才不
 用けるより傳信機とも改正しこれど何とも大仕掛しりて實用
 ありきまで至らざりしが千八百三十七年今より三十四年、亞米理
 加の人「モールス」五年のる勉強して大に發明せしことども貧乏にして
 仕掛と接らへるに出来ざれば合衆國の政府も願ひ三万ドルを

を得て千八百四十四年今より廿七年は合衆國の都「華盛頓」府
 より「バルチモール」府まで十七八里のるに線と通し兩府の音信
 と通しよりと世界中の傳信機の初めと一十八百五十一年
 今より二十年は英吉利の「ドーナル」とり地より佛蘭西に通せし
 と海の底の傳信機の初めとして以來は法不効ひ所々の海底に
 線と沈め千八百五十八年今より十三年あり、亞多喇海と渡り
 て千里足らずの所を英吉利と亞米理加とのるに線と通しこれとも
 伝信線に合宜しうらむて物を為さぬ由一又持一直まるとぞ
 實に妙なる世の海底へ仕掛るの大業もた容易に自由を得ざ
 ると然もあらん、夫地球の表面ハ高低凸凹ありて大に廣く

西洋新書

十三

凹き処水と充滿せしめんと海と云ひ海の面より出る処と
 陸地と号く水ある処陸地の処都て大小高低の區別不固て其名
 を種々不負せざるなり然るに陸地小山及び如く海の底も又高低の
 処あり是を以て深さの極めとぬるてハホと確と定め難しと雖も近
 頃西洋の洋の中にて已に四千六百丈に至り三里半程の深さの所と
 測量せしめあり富士山の高さも海面より直立ふして一里三丁不
 過ぎ天竺の喜馬拉山も世界第一の高山ると直立猶二里十丁
 の上へ出ず爰を以て是を凡そハ海中の深き処に至りてハ陸
 地不高山のあが如き物不非ず然るとは海底數百里ハ傳信線
 と引の始計実不驚くべきの大業不あらざや我朝も既に三

年より東京と横濱との不傳信線と通下れば近き傍の
 人々不疎らうからぬ物ながら未だ凡そ人の為不もと其大畧と
 僅ふ不記す

「アスピウラルの地」ハナマ同様にして土人の住居甚だ凡苦しく
 宛然牛豕の小屋不整しく家作の羨多しハ皆外國人の住居あり
 け港より歐良巴の諸國より三ウヨクへの飛脚船出るなり「アスピ
 ウラルより」三ウヨルクの方へありたる地と総て「コロンビユス」といふ是ハ
 「西班牙國の船將」閣龍とよみ人西へ航海して初めてけ地と凡出
 せしむへけ返を号て「コロンビユス」と云ふなりとぞ

閣龍ハ意太里亞國の「熱那亞」といふ処不生と一人不て父ハ

羊の毛を摘て活計と爲る者あり閩龍天賦の才機万人不勝れ
 ことば学問ぬす不僅数月不に至らず深く天文地理の奥旨と悟
 り豫て幼雅より航海の志し深うけことば年十四ふて松本
 の仲るふ入り大人と成ふ及んで進々其術不達一傍り近の
 海路の深淺暗礁島峙海岔港々不至るまで暗記知らざる所
 無一年三十五ふて葡萄酒國の勤門と云ふ処不住居一廣く
 當世の博學知識の人と交り倍地理學小心を碎され思ひ計
 る処あまば常不海面不對して風の模様雲の往通ふ起りて
 監え又磯打波不あせらるる機械材木るど拾ひ集めて歐羅
 巴の置東洋の國々不見馴るる物む時の眉と擧め是と訝うり早ふ

發明ぬるありて奮然として言ふ極天地の大なる美ぞけ國と以て
 限りとぬすべき西ふ當つて何程も國土を非ざらや方今東の
 方の國々の残りるく開けそ一探索ぬるの地方をまど未だ明白
 らざるは西洋中の島々あり然らば是より大船を以て西の方へ航海
 一古今未曾有の大功と願ひ一名と後代に止めをやと思ひ夫より
 種々の工夫を回ら一策と費をを頻りるれども入費の金子不差
 支え空費時日と過一けことば初ての所詮自力を以て志しと遂難
 一と思ひ葡萄酒王一約翰ふ西洋中の國ある処と求め来らん
 と以て説けるふ此王性来鄙吝の心深ければ閩龍が説を宜しと
 あことば表ふ是と請得ぬ振一々潛ふ臣下の者ふ命一西洋の

。閩龍海上望々々々
西方小島ありて
知る因



船路と索めらるる小艇浪劇波小
困りゆらと空を飛と戻り来まハ
葡萄王然社ありめと其伴小捨置
ければ閩龍の本國不立歸り意太
里亜の政府不願ひけれども意太
里亜の國王も用ゆると然らば故不又
英吉利不往て「ロンドン」の應不許ハ
出れど英國王も是と信ぜず困りて
猶西班牙不傳と求めけりとの
出けと西班牙の女王「依撒伯刺

閩龍が策と善とぬまどもい時戦争の後やて金銀乏の折
られバ其入用不差支え躊躇けとと閩龍が志氣確呼とて
あつる不感激る一女王ハを統して離るる佩物の装具の宝玉
と悉く賣拂ひ夫が價と以て艦三艘と船中の用具と調へ且乗
組の人数百廿余人と貨與へけれバ閩龍ハ雀躍して大不喜悅出
不_安達_達愿_愿西亞の地の「巴魯斯港」より帆帆して西_西向_向ひて走る
て三十四日不_不至_至ると兼とも天水空_空空_空渺々たる而巳州ハ儲置只
一ツの小島とさ_さ見_見出_出得_得ぎ適_適水_水涯_涯不_不奉_奉作_作る雲_雲の人_人と欺_欺不_不逢_逢
斗_斗り_り多_多れ_れバ船_船中_中の人_人々_々今_今ハ困_困難_難不_不堪_堪え_えず_ずて終_終不_不知_知り_りと
閩龍と罵_罵つて云_云ふ「巴魯斯港」を出_出帆_帆せ_せり_り既_既不_不三_三十_十四_四日_日の_の風

波と凌ぐ爰小来とて夫うと思ふ岩と小足らず然と今日より後
 三日と走せ四十七日と経つとも猶國王と足あらざれば汝を殺して
 海に投返と妄言と吐て國王と惑へし衆人とも腦一苦一苦し
 る報ひ小因て其罪科と正さべしとある小閣龍のた理のみと思
 りのりら今日水中小地方近き小非ざるとハ産せざる魚と見且
 形木枝小実の附るもの漂ひ来ると逢ハ心中小一倍の勇
 氣と生一一人の船役「エスコートル」を言と含めて帆柱へ登せし
 「エスコートル」の閣龍の言辭と守り心と驚て西を望み瞬もせま居と
 り一小舟三日目小當り忽地地地の山と足出—帆柱の上より大音
 声して呼はりけきバ船中一同始めて喜悅—船將閣龍が前小来

り拜伏して無礼と倍礼うりめく三艘の船一ツの陸地へ着けきハ閣
 龍の上陸して地永く西班牙の領地ならんと誓ひしうとぞ是れ
 則巴那麻群島の中の一小一て此地の人民初め閣龍が船と望と
 形ち廣大なれば船と云ふと知らず張上とる帆の羽翼ふして水上と
 翔る怪物の頭と一よと思ひ奔炮の響ととびてハ吼る声りと驚
 け皆深林に逃返して容易小出合ハ「ゴリ」と云ふ俣又閣龍の近
 き傍りの島々を巡覽しけ処と亜細亞島中の一部落をらんと思
 ひ謬りけ地として西印度とぞ称へる故小亞米利加島中も西
 印度の地名あると閣龍より初まると實ふけ閣龍が亞國の航
 海ハ古今未曾有の大勲功と称さべし然とハ合衆國入倫の法

以時よりて採り初め家と造り農商の道と設け大い小鑛山の
 金坑と見出すに至り西班牙國に於て倍莫大なる大利を得
 り然れど西班牙王諛者の舌頭を惑ひと生じ閣龍と亞米理
 加の新採地より鑛の鑛を繫いて是と本國へ呼戻せし小更小
 一の罪科も多しバ於て赦して放しこれと今用ひず成りけり
 閣龍は西班牙王の我が有功の恩と忘れ徳小背くのやと憤り彼
 の鑛の鑛と室の中へ掛け我死せむ共小は鑛の鑛と埋むべき由
 と遺言ありし齡六十九歳ふして終小黃泉の客と成り大有功
 の英勇も切る不幸小身と終る誰う遺徳小堪えざらんや閣龍
 亞米理加と見出せし日本の明應二年の以ふして今より三百

八十二年あり其後數年と過て英吉利人け地へ渡り來り慢り
 小國土と採んとめとと西班牙人は是と敵さす數回拒む戦ひて英吉
 利人と追走らしりしとと英吉利王是小屬せざり勇將と撰
 精兵と選つて再び多勢と押渡り大い小此地と採らむる小其
 威勢猛烈るれば度へ敢て拒む者る一受小於て英吉利人
 益四方小跋扈る一漸々盛ん小成小及び西班牙國の採地次第
 小減少せしり西班牙人兵と奪て再度英人と戦争小及ひこと
 どけ度へ西班牙人敗走せし故倍採地衰微せしり閣龍と尊崇
 きたる王依然として昔小後らすは人として亞米利加の國祖と
 敬ひ尊ぶ故小都府華盛頓の地辺を以て亞米利加とぞ呼び

倭一けこ

諸亦一包巴丹船へ三月十八日小カ

ホルニア島の「カシラ」シスコ港と出帆

三月五日小至り十七日ゆに

「巴那麻」の港へ着岸ぬす港内

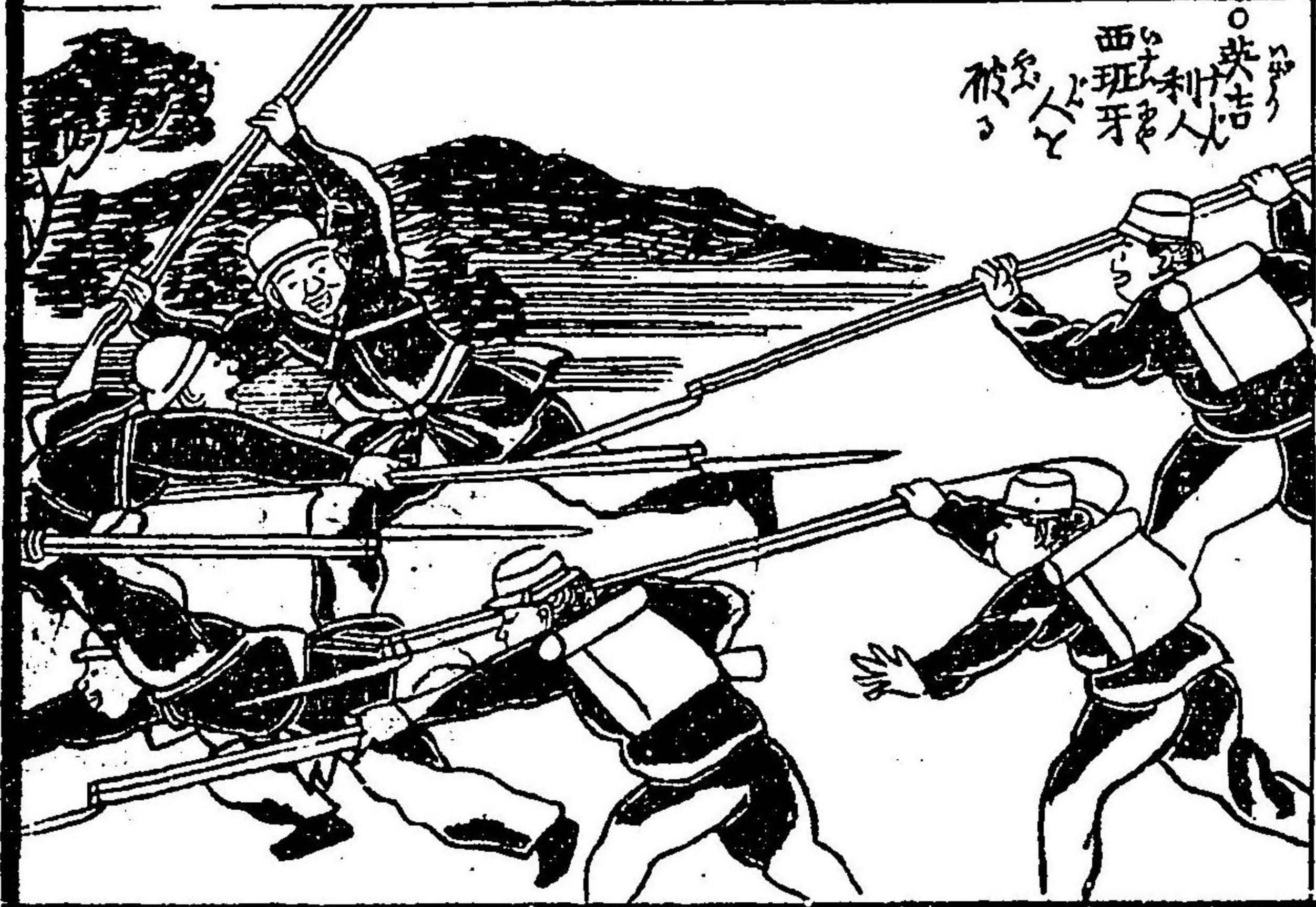
「亞米理加」の軍艦二艘ありて砲

をす當地へ人氣悪くされ不時の

備へふとて常小番船を置よ一午の刻

小至り大い小雲起り大雷強く雨日本

の夕立小似たり終て「カシラ」シスコ



○英吉利人
○西班牙人
○被る人

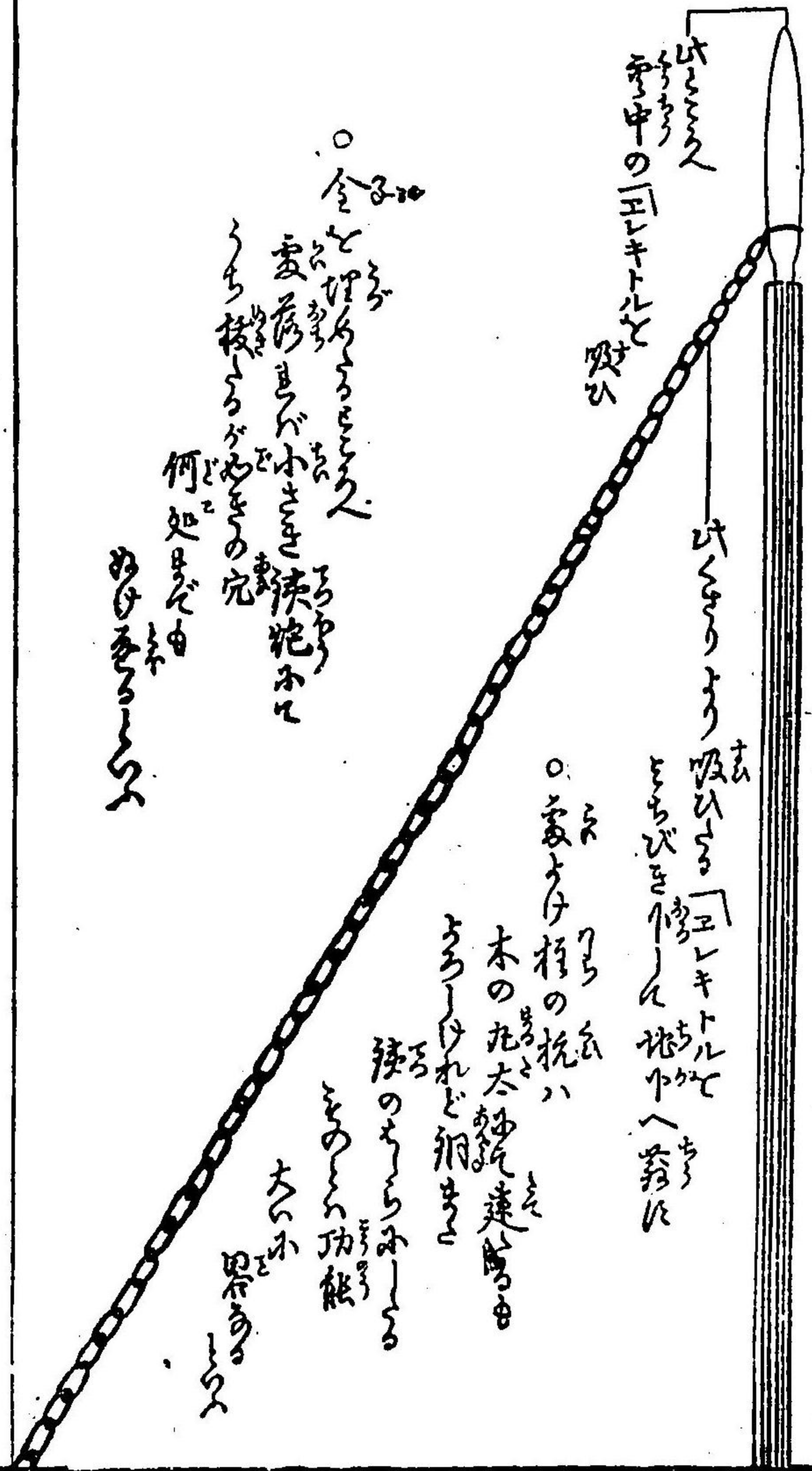
あり「ハナマ」小乗る路の「メキシコ」の海岸へ年中雷鳴まると多きありて
去る共七日小帆柱の上へ鉄板を作り一劔の如き物を揚げその劔の如
きものより鎖を引下げ下げたる鎖の先を海の中へ入せしは是雷除ふ
て雷若し船中へ落る時へ雷を引鎖を吸寄せ水の中へ落し入る
の仕掛あり今東京の中へもは雷除の抗の建るるところ稀に尺え

避雷柱へ鉄の棒の太さ二寸長さ三丈あると常例の物とあると
雖も都合小因りてへ此の高低のありても宜しは柱の先へ長さ
二尺計りの銅の針の先へ一寸六七分程の銀の尖りと附る
又銀溶けぬる物もて宜し溶か難とざる板小拵へ其

尖りの銀より鏡煉より鎖引ても引下げ其下げたる金小鏡
 の出ざる板小何色の画の具ふても塗置居下げたる金の先と井戸
 の中水溜桶等へ入ると宜とす前小雷の條下小も説ふ如く雷
 電共小雲の中小生ずる「エレキ」をれば其「エレキ」と鏡の棒の上の
 尖り小吸着せて鎖より守り下げ水中へ落し地下へ散らす
 夫と故鎖鑄出た「エレキ」を守り十分ならぬなり然ととも一本
 の柱小て遠く離とる處の防さへ成し難けとば廣さ場所小
 何本も建置し「避雷柱」の定法へ防ぐんと思ふ場所より高さ
 六尺あるとば其四辺一丈三尺の防さとする高さ七尺あるれ一丈
 四尺の防さ小成とあり全く「避雷柱」の工夫へ雷と避るがぬ小

非ず雲中の越力と尖りの銀小吸着せ鎖より下げて地中小散ら
 一雲の中の「エレキ」を賤して音と起させず光りと与らとめん
 なるの機械ありと云ふ千七百八十二年今より八十九年が普魯
 士國の「グロガ」と云ふ處の火藥庫へ雷落ととも「避雷柱」數本
 建とせば彼の尖りの金の鎖小吸へきて地下小散り其大難
 と逃れより同國「ブレスシヤ」の地の火藥庫小「避雷柱」を故
 千七百六十七年今より百四年が火藥庫小雷落と積貯
 たる火藥是がぬ小只一勢小発しければ近隣の家居人畜皆
 飛散つて形体と見ず後小是と調べると死せし者三千余
 名小及び「シ」云へり又「ヘチチヤ」國小「シントマ」の塔とて

世小名高き大塔あり一が其屋根高く空中へ突出これ雷の「エ」
キの導と成り一々往昔より雷落ると数回小一破損所多



く是が修覆小莫大の入費を掛一が避雷の法なり早くは柱と達
より一其後の何程雷鳴ある年亦ても「シントマア」の塔の近
傍り小落るとなくは災害を避とも全く「公榮克林」が窮理
の餘澤ありと云へり

一て「レンジ」といふ橙不似「パイナプル」の木の如く「ホシ」
ガレといふ柘榴の事あり色青く桃に似たるものあり其乗丸
西丸の類もありて何とも美味あり又「リモ子イド」とて水子
砂糖と橙けと交ぜると賣り來る小炎熱して咽喉乾けバ

西洋新書 三

其味ひ得も云れぬ程に美味く覺ゆども餘り餘り用也と服合
 小悪し又種々の變り酒を持来りて進める小價に他所より下直
 れれども大抵食物にして味ひ宜しからば此辺に熱病の多き処也
 食物の随分と心附てよ一夜ふ入り船の上へ多く當来り飛交ふ
 捕えて是と見ふ小皇國の當と變りたるを一期翌六日河蒸氣船に
 乗り揚り波戸場に至るは港の海遠淺小して大船岸まで着され
 ばかり波戸場の棧橋と上り去り火輪車へ乗込る小兒物の諸人
 前後左右小群集おせり此辺の土人の色黒く黄毛を髪に毛縮ま
 たり多くへ裸体素足にして其様最端に強み旅人の荷物の中
 小金子かどぬと見えは忽地小搔浚ひ棄ひ取て逃る多とバ合衆國の

人の地の人氣惡し小に殆んどおれ
 と做せども他國の領分を是れと
 制するの能はざる一暫時ありて火
 輪車走り出ま小四辺只一めん小喪き
 渡り恰も數百の雷鳴頭上へ臨んで
 落ゆが如く思はれ小居て肩と並
 る人の言葉も通せざる程かれども
 坐席静小して身体揺動するも
 一鉄路の山と窪と谷と埋め河の
 鑛橋と渡り險阻と平地と為りかど



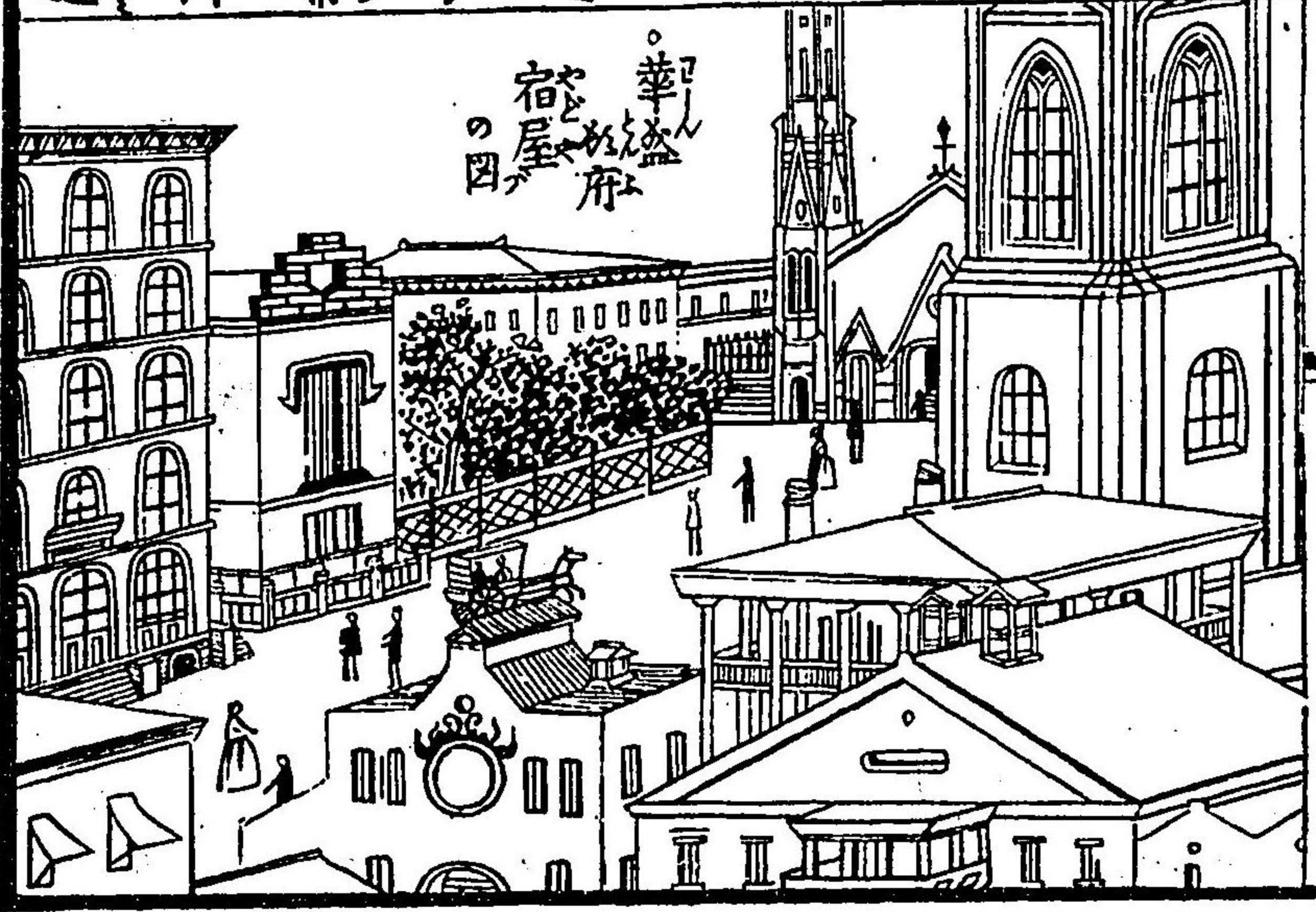
ちる切通しの路多し地常小雨多けと降らざる時といども
 雲霧深く溝堀の水濁り汚れて清瀧ある物絶てり山小紅葉かく
 澤小枯草ある峻嶺四方を圍りて聳一林叢丘陵を捲いて茂り
 目の觸る処に青々蒼々たる樹木草芽小して更小熊父の跡も
 見えず谿水の音幽々小谷え足刈ぬ香の古水小鳴かどその景色
 寂寥として虚淋しく虎豹蟻あどの猛獸も斯る奥山小とそ住
 むべけとと思へば自づと毛穴も弥立て覚ゆるあり借火輪車ハ
 ハナマと「アスピウラルとの道の半途小休むは所小三階造りの美
 麗ある家あり是我が國の立場茶屋の類ひをば爰小て午飯と
 喰む「ハン小テ葡萄もと桃の実小似たる菓実と牛肉とあり

喰み終つて又車と走らせ暫時小して「アスピウラル小着すハナ
 マより是迄の道程二十二里余のところで途中險事の向入りと
 僅小一時半小して来る其早さと押して知る「借又日本使
 節の人々の「ハナマまで「包巴丹船小て来り「包巴丹船
 の人々小別と上陸あり「アスピウラル港小至る爰小ハ又「ローノグと
 いる船先年より日本人とゆはれし其日小ハ「アスピウラルの
 地より「ローノグ船小来り「ニウヨロクと差して出帆あり

華盛頓府の説

華盛頓府の大統領住居の地小して「ポート
 メントと云大なる河小添て市街とあり町の廣小東西二里弱南北

一里弱人口六万余時候ハ皇國カ東
 京より余程暑一夫也一雷ハ至
 つてまけきとも地震ハ兩陣以來
 大いなるものなく西より地カ
 い稀ハ地震あり然れども相す物
 の落さるどりふすハ絶て多し是ハ近
 四辺ハ貴火山ありけしハ水氣盛ん
 て火氣少き故なりと云市ハ中ハ道
 廣く其大いなるハ二十間或ハ
 半丁ふ至り種々の樹木を兩側ハ種



野々ハ草花の園を設け馬車通行ハ
 の館ハ鉄の丸棒を以て周圍の垣と
 小大なる家居建り堂上の正面ハ
 木係を置く何きも立像ありハ館
 造營ハ似り要害の損も無く又石垣
 更ハ云一を羨無ハ云一これども
 階高ハ七ハ八階ハ及び地より屋
 分け宿屋の家居廣大ハ一ハ四十
 ハ五十間四面の宿屋ハ座鋪の惣
 二百余空ハ一ハ下ハ

子の數十八登らざれば一番の上の石の階に上れずけ家の階子の數
 七十五脚あり座敷の内小酒店ニテ所業推店一テ所小回物店ニ
 所多業粉店書物店髮結床るどあり是は國小てい小き家
 と遠とて停止して小き家と遠とて遠の身代ふて破損場あり
 ても修葺し届うず捨置がらるれば自然又苦勞あり行き是と
 外國人小見らとて國の恥辱ありとて禁むるより夫故小裏
 店の類は一切裏店住居なくと送り送る程の者皆旅籠屋
 の後と借りて茶亭と持あり然とて二代も三代も旅籠屋
 住居として居る者あり飲食のむ旅籠屋の焚火ふて宿賃
 の多き者ハ都度、小食物と我が居間へ取寄せ宿賃の少き



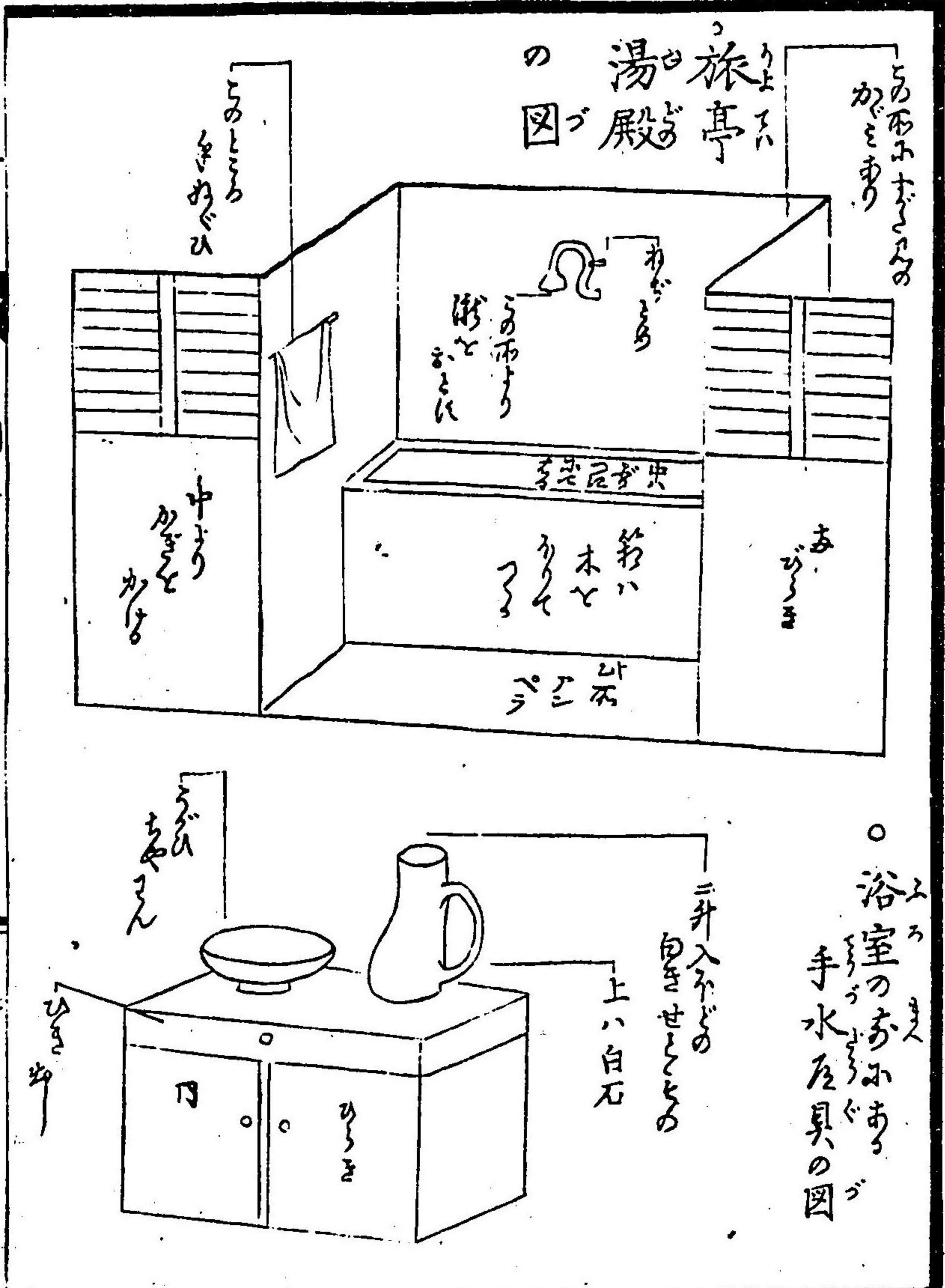
旅籠屋のりハ半鐘と打鳴せと相見ふ下座
 しの食子のる一集り来りて飲食
 旅籠屋のり食ハ一日ハ二度なれど
 由二度も小酒菓子と用ゆる
 あり夜ハ入りて一度ハパンと喰一茶
 七飲と常とるす一晝夜の旅籠賃一
 人前金三分くらゐより一兩三分二朱
 ぐらゐ延あり又け座鋪小住者の内
 小ても下男下女と使ふ人ありその下男
 下女等の食料ハ平日ハ牛肉の塩漬

パン中りあり我朝の裏店住居する替りの旅務屋住居るとども
 座敷のいり毎不姿見の鏡と建額と掛け時計とい種々の置物をど
 と飾り付腰掛蓆筭一カウプリー室の中であと 寐床の類に至るまで
 兼てそいて拵へたり又る毎の隅の所小紐の下りい宿屋の者と呼
 とら曳紐ふいて「サンフランシスコの旅務屋の條ふ委細詳なり
 亜米理加人の嘲い華盛頓府の町にて夜と建所帯と持の
 百万弗の金と持ざれば成難一といり餘り小大造る林小史
 けれど女他行るふ一人の身の鎊り小千弗より万弗とらぬ
 掛ると云れば家の造作諸道具何とも夫小准むる故一向小空言
 りるとも言難むるべし後日る不確證とゆき記せん

諸も夜ふ入るとバ瓦斯燈と設け是と燈を瓦斯沈い日本の掛り燈の
 扱る所へ用ゆるる石炭の氣と管の先へ取て照せふて管の口元小金
 減金の章花或ひハ鳥獸などの形と鑄し一風を防ぐ小硝子の笠と
 以てある故照明の麗へいささ露の如け燈火と座敷ハ勿論廊下雪
 隠風呂場小至るまで幾箇所と多く燈一連ぬれば明るさるる昼の
 如し瓦斯燈の根元ハ華盛頓の市中ハ只一ヶ所にて其処より地中へ鉄の
 大管と掛大管より小管と枝管と掛け是と家々の中入り口の門の上往
 来の常夜燈橋の上の燈臺など小數限りも無く燈一連ぬれば白
 昼よりも明るくいて夜行する不提燈を用ゆるといふとあり
 瓦斯とい西洋詞ふいて煙も多ん杯の空中小立昇る物と云ふあり

瓦斯を製する所の石炭と金の内小窓因る一是と蒸焼する所の石炭の瓦斯すは氣則炭化水素瓦斯にして之を火と點せれば空と合して燃え其光りゆらゆらして油燭の燈よりも麗なり千七百九十八年今より七十三年に於て日本の寛政八年に英吉利に於て初めて瓦斯燈を用ゆるを工夫せしより以來其製法益々究げ今ハ何れの國小ても繁昌する都下にてハ商社を借び瓦斯燈を製して一ト管小付何程とりよせ居ると極め是と市中の家々へ賣て双方の利益を得ると云へり

借又水と呼ぶも自由にしてる毎小流一の極るに於て其栓と板ハ何時ふても水送走り出さるる雪隠の壺ハ一度ハ小管の



西洋新書 四編之三

七

檢と抜水と走らう汚穢と洗ふの仕掛ありて洗面も檢と抜て出す風
 呂場小湯と水の檢ありて湯水自由小出るも一熱くても飽くま
 由人も借りておぼろあり風呂の入り口の同さふて内より鏡と
 下す彼の國の人へ他人小肌と見せざるを以て常と為るれを一人り
 入りあり風呂の側小姿見の鏡と墨バ鏡ふて見るから洗ふべし嗽い
 茶碗と洗面の鉢の傍り付ホい湯殿のあふありおぼろふておぼろ水
 も矢張瓦斯の管のどく地中と横堅小繞り日本東京の水道の樋
 と同一大樋一枝檢と掛ケ一ト極ふて何程とりふ運上と知れこと
 瓦斯燈とあり湯ありまの夜中といども何時小限らず檢と抜
 湯水自由小出るかり其さ温泉水場の如し又家内の処へ湯と

廻走小ハ大なる蒸氣の仕掛ありて皆け処す極ふて死るあり
 衣服と洗濯するも人も用ひず大いなる湯船ありてその湯船の
 内へ汚まると衣服と入れバ中小仕掛ありて是と動ろしを以て
 洗ふより汚穢を落不れて業早し又水と絞る仕掛ありてハ差
 渡一一間斗りの丸く深き釜あり絞らんとなる夜とその中へ入るれば
 彼の番石臼の如く回して忽地水と絞るなり物干所ハ蒸氣仕掛の
 してある隣りふて四間四方斗りの箱の如き物なりその中へ入るて
 下す小隣りの蒸氣の火氣不て昔時の石小乾き雨天不ても差
 支るまどいふるなり都ての仕掛実小ユ小操り諸事の弁理と
 盡しより儲まると高きよの人物ハおぼろハ歐良巴人の種なきども

在来の亞米理加人も多し歐良巴の人よりハ男女く白色
 白く丈高く亞米理加人のより後ハ色羽色小く丈高かくハ然
 まども歐人し亞人との雜種あまごハ混トて分ぬ小區
 為一ガ

世界の入種五種あり一ハ蒙古種二ハ高加索種三ハ以日阿伯種
 種四ハ亞米理加種五ハ亞米理加種等ありて其徴効とあるハ大畧
 左の如し
 見がらも 蒙古種は多し頭方わりて額平く顴骨秀で鼻高からず
 皮膚黄土色或ひハ褐色小して髪黒く鬚髭少く或ひハなき
 者あり丈高からざる物多しハ人種並細亞の中央より日本支那

満州後印土等の人民皆是なり又歐羅巴の北の方ハ芬ラフラン
 ド人及びハエスキモーの人種も皆之ハ屬也又土耳其人ハ其種混
 和する者多しといども多くハ蒙古種あり
 高加索種ハ白人と稱す頭圓く顔瓜実小して前額直小して
 高し鼻高くして眉毛の上より起る顴骨平らなり口唇少く
 丈長大肌層ハ鶏卵色小て髪の色褐色あり眼色碧とを華が
 歐羅巴の人民皆ハ種教あり然れども日光を受るの烈しき處
 小於てハ其色暗黒小至るもの有り歐羅巴の南部の方の住
 民ハ次身小褐色と華が又亞非利加の北の方及び亞拉比亞印
 度の住民ハ種類もまども炎熱の地方小在る者ハ其色暗黒小

以て焦土の如し

以日阿伯咂種ハ黑人と称す頭狭く左右より押き如くふりて額
傾きて尖り顴骨高く鼻差げ鼻の穴大なり口唇殊小厚く且大
小にて前不突出せるが如し肌膚漆黒小髭の毛縮て卷く
非加州の土人皆け入種ふりて又亞米理加島に於て奴隷と爲り使
かもの多し皆亞非利加洲より移せる處あり澳大利亞那吉尼諸
島の土人又け種類とあす本物人とこと黒坊といふ
巫来由種ハ棕色人と名く頭狭く顔廣く顴骨秀で丈大きく
肌膚黄褐色髪のも多くて黒く柔く
度諸島及び巫来由半島の土人皆け種類あり

莫古種

黄人



亞米理加種ハ銅色人と名く骨格稍蒙古種に近く顴骨秀で面廣し
然れども平らうみならず目陷り鼻廣くして高し肌膚赤色にして
銅の如く又膚よりの方ハ暗黒と帯が髪のも捲くして黒く鬚鬣少
く或ハハをそ者多し亞米理加の土人皆け種類あり
以上挙る處のもの本来の土人ハ判然之と別つべきども亦種混れ交
りる時の次第ハ其間の種類と生れ其
子孫又他の人種と混れ交るるとさハ
終ハ何處の人種と分ち難き者少
るからず今世界の人口小なりて其人種
と分ちるる小大畧左の如し

高架索種



白人

巫來由種



棕色人

亞米理加種



銅色人

以日阿伯啞種



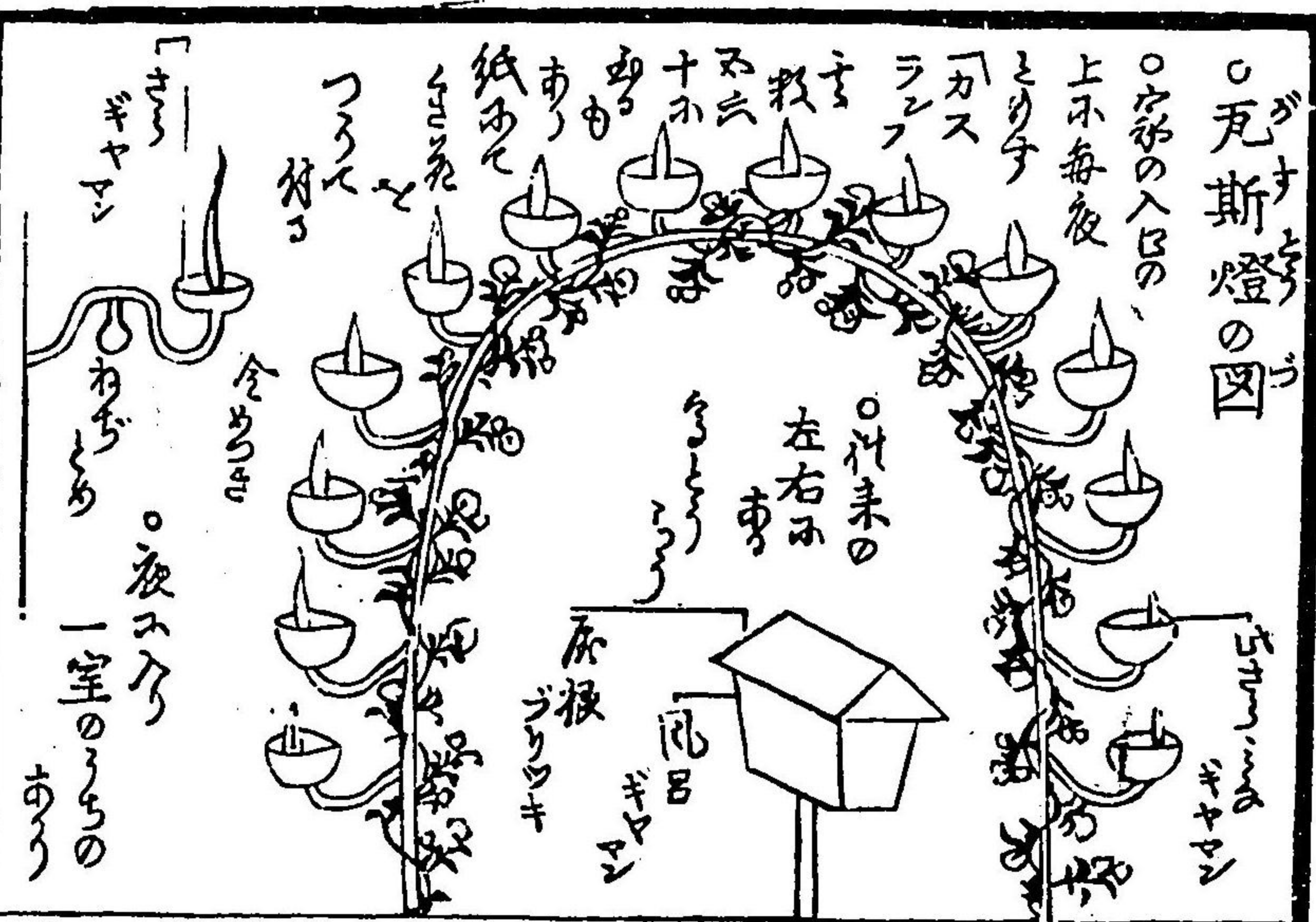
黑人

○蒙古種 四億七千万 ○高加索種 四億 ○以日阿伯啞種 八千万 ○巫來由種 四千万 ○亞米理加種 一千万

依此國小て男ハ羅紗の筒袖股引と着用せ冠り物種ヤあり士官の礼
 服ハ下小白と西洋布と着て上ハ黒羅紗とて肩の所ハ金指金糸と以て
 造りたるイボレットとて首の所ハ又金糸と以て巾一寸半りの飾
 と縫ひ筋三本あると最上とす冠り物ハ金糸と以て巾一寸半り
 積ふ筋と縫たるハ額の所ハ金と以て驚破等の形の物と付如
 一本と羊す戦場ハもけ服を用ひ具足の類別ハハ女ハ羅紗ハ
 限らず都て毛織の物を用ひす紺布と以て服とハ一着るハ然
 ともハ亞米理加ハてハ養蠶の法未と聞けハ紺糸ハ皆支那より運

送て佛蘭西へて鐵出ー又は國へ持渡るれば貧乏者怪さるもの
 等ふ至りてハ價高くしてふ入り難一因りて夫等の者の皆唐
 更紗で用ゆるるるもども汚れ垢染るる衣類と着るるハ更紗ハ一服ハ
 筒袖のもども腰より下ハ「ホーブスカレンス」と云鯨骨の如く捲
 ころハ布と云ふて卷大なるゆ至りてハ裾の所ハ青渡一三尺余及
 ぶ途中と往ふ少一引物やど長一ハ「ホーブスカレンス」ハ十五六年亦佛
 蘭西より流行せりてそのハて総て歐羅巴亜米理如きハて衣服髪
 の形ち等の流行ハ佛蘭西より始まるる云一りも昔ハ「ブレースレス」
 と云稱と掛りありハ佛ハ金銀珊瑚樹水晶ギヤマン等ハて作れは物小
 して種々の細工あり其價百兩より千五百兩ぐらゐの値不至るハ佛の

瓦斯燈の図

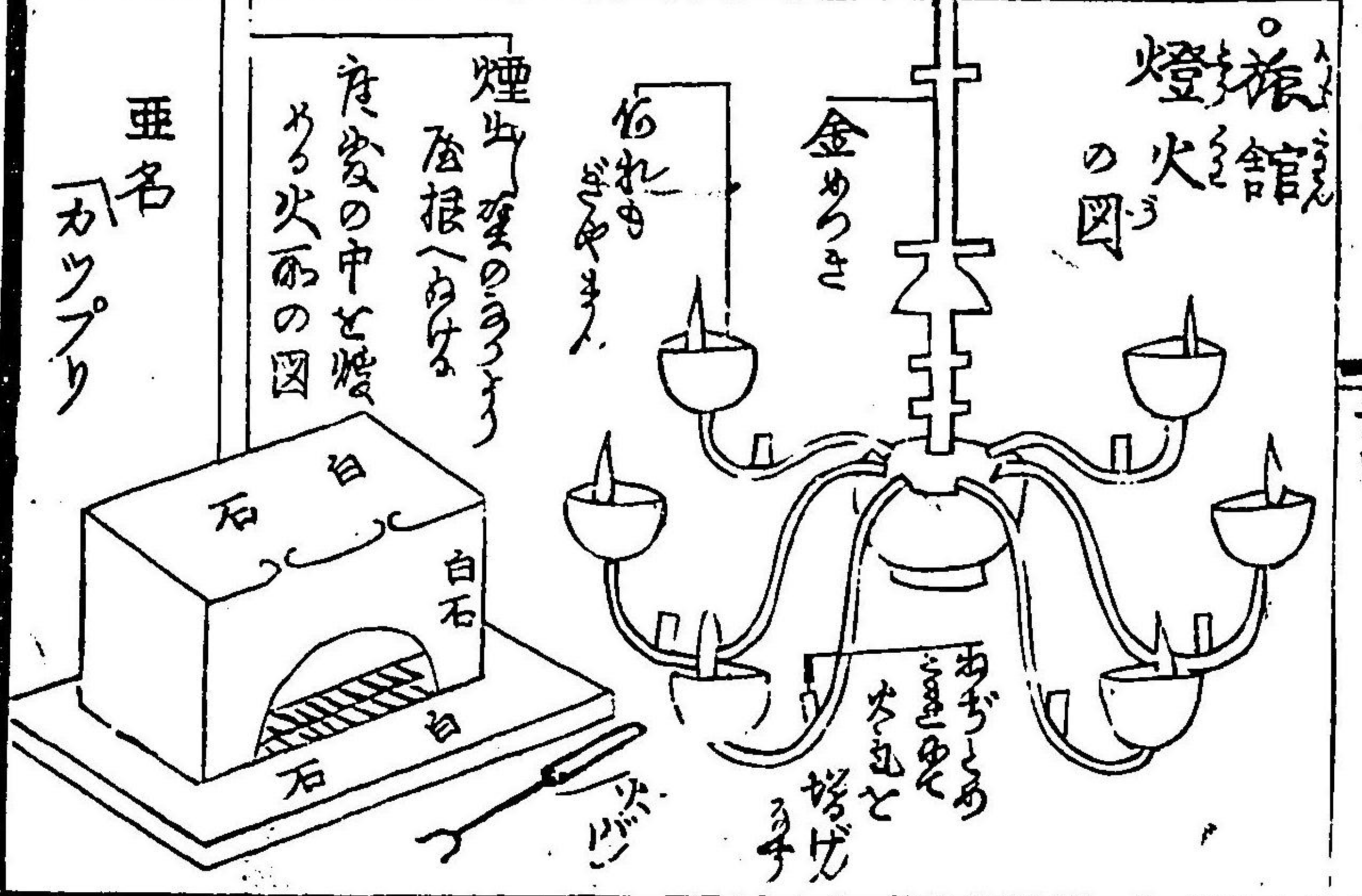


中一親子兄弟又ハ許嫁の男女の髪
 の毛を少一切て入置かり又指輪の
 男女ともハあり是ハ日本の印鑑の
 数ありとぞ髪ハ額の所より左右へ
 だけ香水を用ひてよく梳る也其
 艶美ハけきども髪ハ毛黒ハ稀
 ありて多ハハ赤あり然もどもの
 肌膚細やうふりて雜人形の如一
 中より以上至りてハ女とハ一ども
 金時計と持たり故ハ中人以上の

婦人他出まらぬ一人の身の飾り十両より万両からぬ至る依て貧
 一さ者の妻を迎ゆる能はざるとあり女へ冠り物を取肩と出すと
 礼とすけ國ふてい惣て女をさるゝ一席の中不女を時ハ女へ礼とさ
 して後男不礼をぬけたり女へ對して礼と為す女へ冠り物を除せ
 男不礼とす女へ冠り物を除らざるを常とす予論を往不女向ふより
 來る時ハ男片ありて是を通せと力取扱ひ方日本ハ下衆
 の者の親分をさる致じ如し男女口を吸ふの礼ハ親子兄弟後身進
 みて親教をさる親しき朋友ととも握り合ふその他ハ双方より
 ともと歩んむらうたり然もども入魂身一と成れば親族みらざる者
 もりと吸ひあふと云り人のよと握りまゐの甲を嚙るを次と

我々人の口ふき又我々の指を指次とす是ハ口を吸ふの畧一なるハ
 當國の男の礼ハ冠り物を相互に脱ぎとるあり又互に口を握り合ひ
 三度上デ下ガとぬると入魂とせると女道談を往來する小男と女
 組て歩行かり女の一人りみて歩行ハ少多一年往來女ふての許
 家の夫ある者ハ是と同及るす然れども誓姻を結ぶハ男ハ二十一
 女ハ十八才女至らざる能はず然れども又誓年ハ後されば許さる男
 ハ二十一才女ハ十八才女ありて誓姻を後ハハ衰り自づと病むを
 暖し且身体ハ力満る小至らざる酒ハ又是ハ整くして諸業の急
 りと引出す故ハ國禁しぬるあり女大人とくとも裸り酒を飲
 事と敵はず日曜日とその翌日の両日を赦さるり都て上官の令

多く酒を飲み酔つて道路を滄浪つゝ
 下輩の者不限れり人足は久しは舟
 一む日曜日ふの市中冬く戸を閉商
 賣を休むとの容子日本東京の元日
 の如く日ふの人の寺へ往て法話の
 類を説く者多し國中の人惣て耶
 蘇教を信じ処々ふ寺ありて造築
 の横板を奇あり男女け処の群
 集し説法休息の石の樂を奏し經
 文を唱ふると日本門跡の御堂へ往き



いふが如く

因ふ云世界中の國々如何なる蠻夷の採けざる土地とらども神佛を
 尊と祭らざるもの一総て人力の及ばざる處に神仏をて是と総て
 するものと思ひ日月雷電及び山林水火等を祭り或は金石土木
 等を以て神佛の像を作つて之を祈る何もの國もては神仏を祭
 るの教法大昔日より在りて初めは皆一ツ教えるりしが其傳來の
 久しきより種々の法式を成し其中に大有力の聖賢出ると時
 書を著し説を立て別れ一種の教法を承き後前よりの教えを
 看破つて一派の法式を分るに依りて終に其種類の多きに至れり
 今是を分るとして一と多種の神を祭るものと一又一と一種の神と

祭るものとす一種の神を祭るの教其一猶太教其二耶穌教其三回教是より其中より又種々の門派ありて分れり耶穌教の歐羅巴全洲大畧以て宗旨ありて又諸州に蔓延するの教の兩祖より以來人と一統不導く故終に宗徒の者黨を信ぶの勢ひを生じ八百餘年を経て東部西部の二派に分れ千五百二十年今より三百五十年迄は西部又二つに分る是則舊教及び新教の二派より耶穌舊教又天主教ともいふは歐羅巴の南の國々不盛んありて中央の國々の兩派相錯雜又南亞米理加州の人民過半は門派不屬す宗法として教師と諸州に出し我宗旨を導く人として勉む昔日日本へ来りしは宗徒ありて西洋諸教の中より最害多き宗教

ありと云へり耶穌新教の英吉利及び日耳曼列國に盛んありて和蘭瑞西等の人民も大畧此門派に屬す又北亞米理加州にも盛んあり希臘教の魯西亞に行はれ土耳其希臘の人民は宗旨を信仰する者多し其外耶穌教の種屬ありて數多の宗名を異ふ一層西亞澳地利土耳其比耳西亞等の偏地に行はるもの許多在り云とど是を詳めざる猶太教の最古代の宗旨ありて耶穌教より早して遙遠あり初め猶太國に行はれ其國亡びて後人民歐羅巴或は亞米理加州等に散在し其地に行はれ宗旨を信仰せり田教は土耳其亞拉比亞比耳西亞等一般ありて亞細亞の西の國々より中國に蔓延し印度の島々に行はれ亞非利加島の

西洋新書 神教之

卅五

東北埃及努皮亞等處信仰は多種の神を祭る教えの説き
 さらし奇怪にして人情不背さるる多し印度より支那西
 利亞等へ盛行し亞非利加亞米理加の中の所りたる地澳大
 利亞新西蘭等の島國の未開地一般に之を信仰は然とて一
 教えの非ざ其地を因り教法の乃種々不別とて其宗旨最も
 多く偶像を祭り或は日月山川樹木禽獸骸骨土石器械等
 を崇め禍福吉凶等に至るまで皆悉く神仙の意を出さるる
 之を祈り又死後の冥福を希ふ其中最盛んなく深遠な妙
 なる空理を談ざるもの婆羅門教及び釈教のく婆羅門教
 の釈教より遙るる古く盛んし前印度を行はる釈教は印度

の錫索島及び後印度支那蒙古滿洲西比利亞日本等へ押し蔓
 延其他妖魔靈鬼を使ふと言を信し或は日食を懼し或は雷
 現を尊むなどの種類甚だ多く又儒教あり専ら人倫の道と
 講げ支那より起りて稍隣國へ移り廣まり日本最に教えと尊
 信を然きとも儒教の他各國の教法何とも人事未だ乖けざる
 當つて勸善懲惡を解暴戻する風俗を改め世に大益ありと
 盛んたるふ及んば却て人智を昏まする多しして僧侶の權の
 盛大に至り既し歐羅巴洲中にも耶蘇教の亂を生じ
 事なきの人民を多く殺せり東洋諸島に於て夫等の事條
 最多し

華盛頓府ハ合衆國の首都多ク故ニ記す可キ物甚多ク初代
大棟梁華盛頓戦争一代の畧傳ナリ南北亞米理加戦争の大概
又その國の政事病院病院に至るの數院博物館次々松女屋の模
板戲場狂言の仕組人寄觀物の容子迄何となく無く言んたる
了小既小補敷の限り小至ると華と止めて次編小讀りぬ

西洋新書初編下

西洋新書二号より後後まで続既小次續へ出版

官許 明治五壬申年中春刻成

瓜生政和編輯

橋本玉翁正画

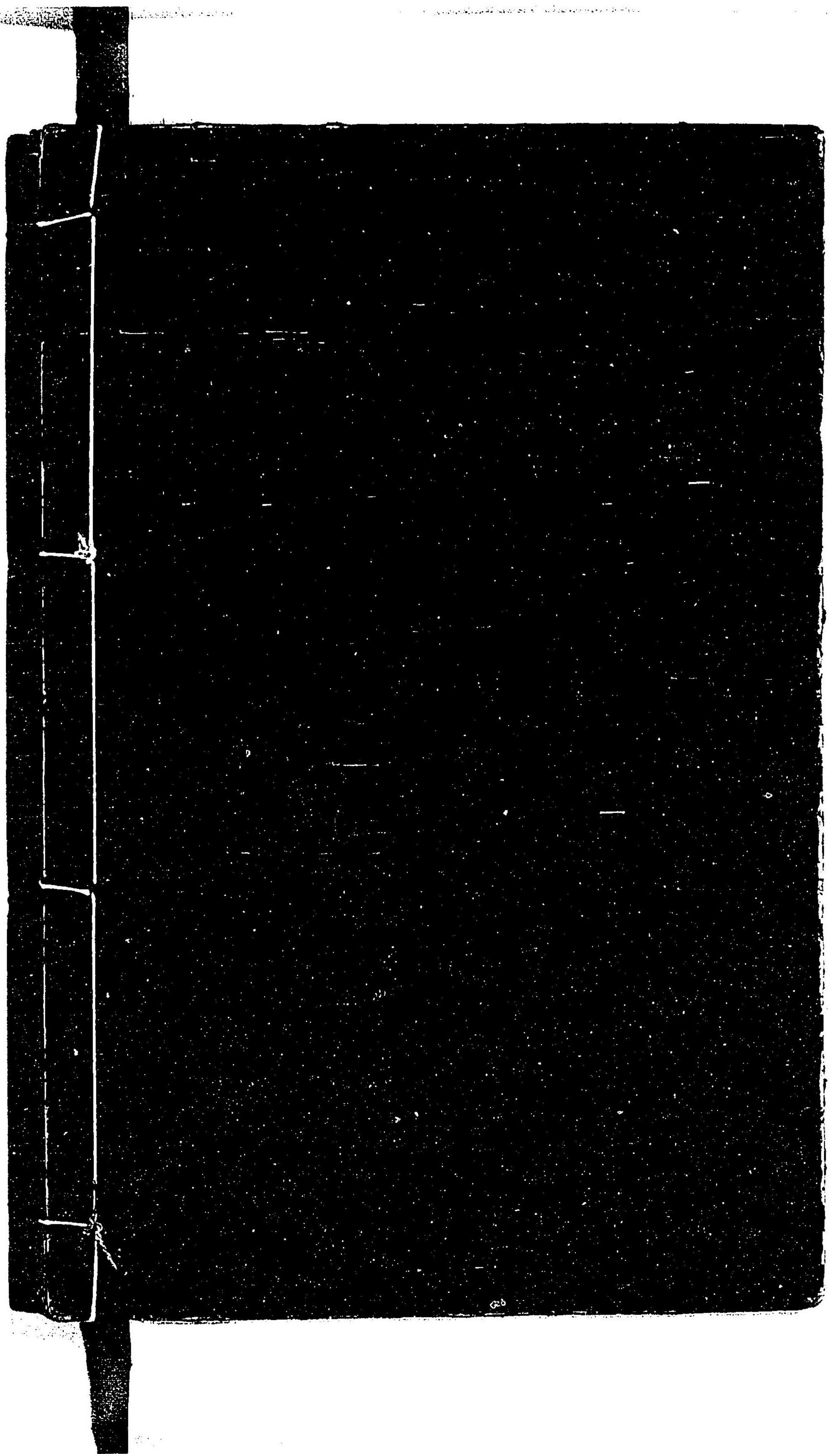
梅村宜和藏梓

東京
書林

大和屋喜兵衛

發兌

15
14
120



特31

671

共
十
四
卷